



念じられ 照らされて

〈ひとり一世界〉への目覚め

武田定光

絶界の個に還る。私はこの世に存在する唯一なる存在である。他者と決り、溶け合うことも比べることもできない固有の世界である。この世界の発見が、「親鸞一人」の発見であろう。つまり、この世に生きているのは、私一人しかないという目覚めだ。それでは、私の眼に映る他者や他の事物は何かと問われれば、それはすべて私一人を成り立たせている世界である。空気も水も大地も、草木も動物も、さらに何十億人という他者も、私一人を成り立たせている。それを私は〈ひとり一世界〉と名づけている。

「この妄想は、世界というものは、ただ一つしか存在しないもので、その中にあらゆる生物主体が一緒にはじめこまれていて、この信仰によって培われていて、ここからすべての生物に対して、た

だ一つの空間と時間しか存在しないはずだという、ごく一般的な確信が生まれてくる」

〔「生物から見た世界」〕
彼は、学んだのだ。生物には生物独自の世界があり、決して人間が見ているように、世界は一つではなく、ひとつの生物にひとつの生活世界があることを。だから、人間にも人間固有の世界があり、八〇億人には、八〇億の独自の世界があると見破った。しかし、人間は、それを大雑把に抽象化した。それぞれの違いに目をつぶり、一つの大きな袋のような世界にすべての生き物を放り込んで、その中を生きていると考えた。この世界は一つだという見方は、実に恐ろしい。「世界は一つ」という観念は、この世を生きる価値観を一元化し

やすいからだ。たとえば、「死」という観念も一元化した。生者は、「死」を体験できないにも関わらず「死を知っている」という観念を共同で作りに上げた。生者が知っている「死」は二人称、あるいは三人称の「死」であって、一人称の「死」ではない。つまり、「本当の死」を知らない。知らないのに、「死を知っている」と思い込み、「暗く、冷たく、寂しい」ものだと評価した。この観念を親鸞は「断」と言って解体する。「生として当に受くべき生なし。趣としてまた到るべき趣なし」(『教行信証』信巻)と。〈真・宗〉は、死んでから、人間の予想するような地獄や浄土へ生まれるわけではないし、また他なる生き物に生まれ変わることもないと否定する。この「断」は、人間が「死」を知っているという思い上がり解体する。さらに、「死」の裏側にある「生」をも、不可知として阿弥陀さんに明け渡す。「生」も「死」も、ともに人間にとっては未だに未知の領域にある。それを、「阿弥陀さんにおまかせする」と〈真・宗〉は表現してきたのだ。



〈略歴〉
1954年東京生まれ。大谷大学文学部博士課程修了。真宗大谷派因速寺住職。元親鸞仏教センター嘱託研究員。著書『新しい親鸞』『逆説の親鸞』(雲母書房)、『なぜ?からはじまる異撰抄』(東本願寺出版)、他

飛騨学場 夏の夜天講座

8月1日～5日 午前6:30

2日 「ぼくらはみんな微生物」
音楽家 曾禰テラワキ氏

3日 「南無阿弥陀仏の呼び声」
大谷大学学長 一楽真氏

4日 「なくしたものとつながる生き方」
一般社団法人リヴオン代表理事 尾角光美氏

5日 「人生最期の時のために自分の希望をつたえましょう」
丹生川診療所 土川権三郎氏

追弔会 8月2日 午後1:00
法話 大谷大学学長 一楽真氏

主催 会場 飛騨学場・高山別院本堂

飛騨御坊からの挑戦状

今年もアツい夏がやってくる!
ごぼさま(高山別院)でおもいっきりあそぼう!
まってるぜ!!

7月28日(金)
午前の巻 9:30～12:00 定員30名
午後の巻 14:00～16:30 定員30名

対象:小学1～6年生 申込にて午前か午後をえらんでください
場所:高山別院(鉄炮町6) 問い合わせ:32-0776
持物:念珠、おつとめ本(赤本)、水着(ぬれてもいい服装)、着がえバスタオル、サンダル(足首固定で走れるもの)、水筒

申込:QRコードを読み込んで必要事項を記入 → 締切7/23(先着順・定員になり次第終了)
受付確認ができましたら返信メールを送ります

※ひだ御坊ホームページの「お知らせ」からもお申込できます
内容:おつとめ、イベント、仏典童話、ほとけさまのおはなし

リアル Splatoon 3 スプラトゥーン
ごぼうハンターをやっつけろ! おまつりブースチャレンジ!

※雨天の時はスーパーO×クイズ大会 ストラックアウト・射的・念珠づくり・わたがし・お絵かきなど
主催:飛騨御坊真宗教化センター 青少年部会

